

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第十回）

いかづちの おか
「雷 丘」

1) 大君は 神にしませば 天雲の

雷いかづちの上に 廬いほりせるかも

卷三―二三五 作者 柿本人麻呂

（解説） 天皇は神でいらっしやるので、天雲の中に鳴り
とどろく雷の上にさえ、廬いほりを造っておいでになる。

①この歌の題詞は「天皇、雷 岳いかづちのおかに御遊いでましし時に、柿
もとのあそみひとまろ 本朝臣人麻呂の作る歌一首」となっている。

②題詞にある「雷岳」は奈良県中央部にある明日香村の
北部にある同村大字雷に標高一一〇メートル余りの小
丘があり明日香村史によるとこの丘が古代の雷丘に
比定されてきたとある。

③雷丘には日本書紀・日本霊異記には第二十一代天皇・
雄略天皇の命によって、この丘で捕らえた雷を再び天

皇の命によって雷を放した丘であるゆえに「雷岳」と名付けたという趣旨の地名起源伝説がある。

④この歌に詠われる大君（天皇）は第四十一代天皇・持じ統とう天皇とも第四十代天皇・天武天皇ともいわれ決まっていけない。天武・持統朝にはかつてなかったほど天皇に権力が集中し、「天皇は神である」「この世でできないことは何もない」という思想を受けて、作者・人麻呂は、国見のため雷丘に登り、建てられた仮小屋（仮宮）におられる天皇を、雷をおこす神と云う「雷神」をも従える威力があると賛美した歌との説がある。

○本歌の左注には、「忍壁皇子におさかべのみこ 献たてまつりしものなり」という異伝歌を載せている。忍壁皇子は第四十代天皇・天武天皇の第九皇子。

2) 大君は 神にしませば 雲くも隠かくる

雷山いかづちやまに 宮敷みやぢききいます

（解説）皇子は神でいらっしやるので 雲に隠れる雷山に 宮をたてておいでになる。

(註) 「大君 (大王) は万葉集では天皇・皇子・皇女に
対する讚辞として用いられているが、この歌では皇
子を指す。

(参考文献) 「明日香村村史」、「新潮日本古典集成・万

葉集」桜井満著「万葉を知る事典」他

(写生地) 奈良県明日香村大字雷の集落の東方から「雷
丘」と麓の集落一帯の風景を描く。

(池田杏花)

